

2021年度(令和3年度)
学校関係者評価 報告書

評価対象期間 自:2020年(令和2年)4月 1日
至:2021年(令和3年)3月31日

2021年(令和3年)11月



学校法人駿河台学園 駿台トラベルアンドホテル専門学校

学校関係者評価委員会

目次

1. 概要と実施状況について

1.1 目的と基本方針	1頁
1.2 学校関係者名簿	1頁
1.3 実施状況	2頁
1.4 評価方法	3頁

2. 報告書について

2.1 表の見方	5頁
----------	----

3. 評価結果報告書

3.1 総評	7頁
3.2 評価一覧(評価提言・今後の取組)	9頁

4. 学校関係者評価委員会議事録

4.1 第6回	10頁
---------	-----

1. 概要と実施状況について

1-1 目的と基本方針

学校関係者評価は、学校評価という協働作業を通じて、学校と学校の関係者（企業、協会、学校、OB等）がお互いの理解を深めることを目的とする。すなわち、学校評価の基本である学校の自己評価が、学校に関係する方々から違和感なく受け入れられ、自己評価の客観性と透明性を高めることにある。また、共に学生の将来を考え、それぞれの立場や視点から意見を出し合い、よりよい学校作りに寄与することを基本方針とする。

1-2 学校関係者名簿

学校関係者評価は、学識経験者、関係業界、高等学校、卒業生、保護者により構成された下記の委員に委嘱した。

氏 名	属性	選定方法	所 属
村上 大輔	学識経験者	学校推薦	駿河台大学経済経営学部 准教授 (専門：文化人類学・民俗学, 社会学)
園辺 一貴	企業	企業推薦	株式会社エイチ・アイ・エス 法人営業本部 関東業務グループ統括部長
久保 剛	企業	企業推薦	株式会社近畿日本ツーリスト 統合コンタクトセンター 上席副支店長
青野 まゆみ	卒業生	学校推薦	テック航空サービス株式会社 旅客事業部 グループ長
筒井 揚介	高校	高校推薦	駿台甲府高等学校 通信教育課程 副校長
鈴木 貴子	保護者	校長推薦	トラベル学科現在籍生の保護者

I-3 実施状況

第6回目は、自己評価の説明後、前回の学校関係者評価委員会の意見を踏まえ、更に検討すべき事案についてご討議いただきました。実施内容は下表のとおりです。

会議名	2021年度（令和3年）第6回学校関係者評価委員会
開催日時	2021年（令和3年）11月18日（木） 13:30～15:30（120分）
場所	本校 本部校舎 306号教室
出席者	① 企業・有識者委員：村上委員・園辺委員・久保委員・青野委員・鈴木委員・筒井委員 ② 本校委員：塚原(校長)、納屋(部長代理)、竹谷(トラベル学科長) 高島(就職指導・課長補佐)、渡辺(就職指導担当)、渡辺(教務次長)、大野(教務次長)、南(教務課長) ③ 事務局・進行：納屋(部長代理) 書記：渡辺(教務次長) 写真撮影：南(教務課長)
欠席	
配布資料	☐ 2021年度（令和3年）学校自己評価報告書 ☐ 本校入学案内 ☐ 第6回学校関係者評価進行表（本プリント）
議題等	1. 挨拶（塚原校長） 本委員会開催の主旨確認と新型コロナ禍の授業運営状況について説明し、前回の会議を踏まえ、専門学校としての社会要請に応える為の施策について議論いただきたい旨を依頼し、開会の挨拶とした。 2. 出席者紹介と委員会成立の宣言（納屋） 事務局より有識者委員6名と本校委員8名を紹介した。 学校評価実施規定第13条4に基づき、過半数の出席が認められた為、委員会開催を宣言した。 3. 前回委員会での課題、および今後の改善方策を基に、各基準の評価を確認した（納屋） 4. 学校自己評価報告に対し、評価シートに基づく討議。 各委員が事前記入した各基準の点検項目に対する評価シートを基に、委員からの意見を聞き取り、本校委員から回答する形式で会議を進めた。 基準1 教育理念・目的・育成人材、基準2 学校運営、基準3 教育活動 基準4 学修成果、基準5 学生支援、基準6 教育環境 基準7 学生の募集と受入れ、基準8 財務、基準9 法令等の遵守 基準10 社会貢献・地域貢献、基準11 国際交流（追加基準） 5. 解散

1-4 評価方法

1) 学内自己点検・自己評価の実施

学校関係者委員会の実施に先立ち、『専修学校における学校評価ガイドライン』に沿って、令和3年度自己評価を実施した。自己評価の点検項目は10分類37項目である。『2021年度(令和3年度)学校自己評価報告書』には、各項目の自己点検実施状況を記載し、自己評価ポイント(適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1、無該当:0)を示した。また、①課題、②今後の改善方法、③特記事項を記載し、学校関係者評価委員会に提出した。

2) 学内自己点検・自己評価の報告

学校関係者評価委員会では、学内委員から学校関係者に対し、『2021年度(令和3年度)学校自己評価報告書』を用いて、学校関係者委員に対して、各項目の自己点検実施状況、および評価ポイント、根拠、課題、今後の改善方法について説明を行なった。今年度は、学校関係者評価委員の任期切替後の初回実施という事もあり、全ての評価項目の説明を行った。

学校自己評価報告書<記述例> 本表は以下のように構成しています。

基準1 教育理念・目的・育成人材像

点検項目【1-1～1-5】理念・目的・育成人材像

[チェック項目]

- ☐ 理念・目的・育成人材像は文章化するなど明確に定められているか
- ☐ 学校における職業教育の特色はあるか

本校は1980年(昭和55年)の学校創立以来、創設者の理念すなわち駿河台学園の理念である「愛情教育」を学校の理念としてきました。学問に対するひたむきさと～

項番	点検項目	適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1、無該当:0
【1-1】	理念・目的・育成人材像は定められているか	④ 3 2 1 0
【1-2】	学校における職業教育の特色はあるか	④ 3 2 1 0
【1-3】	社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4 ③ 2 1 0
【1-4】	学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	④ 3 2 1 0
【1-5】	各学科の教育目標・育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	④ 3 2 1 0

1.課題

[]

2.今後の改善方策

[]

3.特記事項

[]

➡ ①大項目

➡ ②中項目

➡ ③中項目における本校で
チェックをすべき項目。

④中項目の点検項目に対する
本校の取り組み内容

➡ ⑤中項目について自己評価
を行った結果に対する記載

- 1.評価委員が挙げた課題
- 2.今後の改善方法
- 3.特に記載が必要な事項

3) 学校自己評価の評価

学校関係者は、本校の自己評価の説明を受け、内容と評価方法を理解した上で、本校が行った自己評価結果について「適切」「不適切」の2分法にて評価を行い、その理由や意見を「学校関係者評価委員会 記入シート」のコメント欄に記載した。

本記入シートは、委員会終了後に学校関係者へ郵送、またはメールにて回収し、評価一覧にまとめた。

<記入例>

2021年度 学校関係者評価シート 自己評価の結果について、ご評価をお願いします。該当に○を記入ください。	
評価者氏名	
本年度定めた重点的に取り組むことが必要な目標・計画 基準1 教育理念・目的・育成人材像 点検項目【1-1】 理念・目的・育成人材像	
評価結果	適切 不適切
自由記述欄 (お気づきの点やご要望を記述してください)	

2. 報告書について

2.1 表の見方

自己評価：学内自己評価を取りまとめた結果。

(適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1、無該当：0)

第6回の委員会での学校関係者の提案、および評価シート記載内容。

基準		点検項目		自己評価	学校関係者の評価・提案	評価に対する今後の取組み
番号	項目名	番号	項目名			
1	教育理念・目的・育成人材像	【1-1】	理念・目的・育成人材像	4	適切に運営されている(100%)	
		【1-2】	職業教育の特色	4	適切に運営されている(100%)	
		【1-3】	未来構想	3	①社会を踏まえた学校の将来構想の今後の改善方策については、今まさに各企業がAI・ロボット等を活用し益々オートメーション化(自動化)している中だからこそ、より一層人と人とのコミュニケーション力の強化が必要。次年度は評価4「適切」となるように将来構想を明確にして励んでほしい。(小林委員) ②一般教養を高めるためのトレーニングであるステップトレーニングというのは留学生にも実施しているか。(矢澤委員)	①まだ方針が曖昧な部分が多く、今後の高校カリキュラムが具体化する中で、方向性がはっきり見えてきてから、学科長会議で話し合って結論を出していく。 ②留学生は、日本語能力の基礎力のアップがまず優先される為、現時点では、日本人だけ実施している。留学生には入学前の日本語補習を実施している。
		【1-4】	学生・保護者等への周知	4	適切に運営されている(100%)	
		【1-5】	業界ニーズに向けた方向性	4	適切に運営されている(100%)	

学校関係者の提案に対する、本校の今後の取り組み内容（提案の丸付き数字に対応して記載）。

評価提案の（ ）内は、各提案に対する学校関係者の比率（評価シートより集計）。

3. 評価結果報告書

3-1 総 評

本校は平成31年(2019年)4月21日に職業実践専門課程の認定を受けて以降、認定校としてふさわしい学校として評価をいただけるよう、また、委員の皆様のご意見を堅実に実現できるよう努力を続けてまいりました。

学校関係者評価委員の方々も3年目となり、本校の自己評価が、昨年度の指摘事項を反映されているかなど、メンバーから厳しいご意見があるかと心配しておりましたが、「外部委員の指摘内容を堅実に取り組んでいる」との評価をいただき安堵いたしました。今後も学校関係者評価委員会を実施することで、本校の教育内容の客観性や経営内容の透明性を高め、本校教職員一人ひとりが教育の質の向上に向けて取り組んでまいります。なお、この第6回委員会では、各委員から評価終了との判断を頂きましたので、本年度の委員会は今回で終了とし、次回を2022年度11月に開催することといたします。

東京オリンピック・パラリンピックが新型コロナウイルスの感染拡大により延期となり、2021年度夏に行われましたが、無観客実施となり観光産業はダメージを受ける結果となりました。しかし、ピンチをチャンスに変えるべく、観光業に携わる人間は新しい観光サービス業のスタイルを創造していかなければならないと考えます。

その為にも、業界の皆様からの新しい発想や助言をいただきながら、社会のニーズに対応したカリキュラムを設定し、実践力溢れる「新しい観光サービス業」で活躍できる若者の育成に邁進する所存です。この取り組みを真摯に続けることを誓い、学校関係者評価委員会の評価報告書を提出するにあたっての総評と致します。

学校関係者評価委員会

校長 塚原 慶一郎

3.2 評価一覧(評価提言・今後の取組み)

項目	点検項目		自己評価	学校関係者の評価提言	評価に対する今後の取組み
	番号	項目名			
本年度定めた重点事項	【1】	新型コロナウイルス感染予防対策中の学校運営	4	自己評価について指摘される点は特になし。	コロナ禍の学生の授業に対する意識変化を把握しつつ、可能な限り対面授業の継続を行う方針。

基準 番号	項目名	点検項目		自己評価	学校関係者の評価提言	評価に対する今後の取組み
		項番	項目名			
1	教育理念・目的・育成人材像	【1-1】	理念・目的・育成人材像	4	多くの企業でインターネット・パソコン・SNS・OAに詳しい社員が不足している。この分野に強い人材育成を期待する(久保)。 Eメール作成・リモート会社説明会・オンライン面談など、就活だけでなく就職後も役立つweb教育の強化を期待する(青野・鈴木)。	IT系学校で学ぶ高度な専門技術ではなく、旅行業務に必要な不可欠な技術の習得を、パソコン授業・インターネット活用術授業で教育する。
		【1-2】	職業教育の特色	4	自己評価について指摘される点は特になし。	
		【1-3】	未来構想	3	コロナ禍では他業種を含めた就職指導は適切。対面型学習を積極的に実施しながら、ICT教育の充実を図る改善方針に賛同する(簡井)。	観光サービス業への就職を目指し指導するが、引き続き他業種も視野に入れた就活を指導する。 授業では、実践的な対面教育に加え、ICT教育を臨機応変に活用する。
		【1-4】	学生・保護者等への周知	4	自己評価について指摘される点は特になし。	
		【1-5】	業界ニーズに向けた方向性	4	自己評価について指摘される点は特になし。	
2	学校運営	【2-2】	運営方針	4	自己評価について指摘される点は特になし。	
		【2-3】	事業計画	3	経費の無駄を省くとともに、Wi-Fi環境などへの投資を検討してほしい(園辺)。 省力化を図りつつ堅実な事業運営を行う方向性は、やむを得ない。ICTを駆使して紙代・印刷代を削減する取組を当校も実施している。連絡の周知徹底とセキュリティ対策が重要との認識(簡井)。	学内Wi-Fi・パソコン環境については予算確保のうえ新規購入し、大幅改善した。 紙代・印刷代の削減については、一部講師によるプリント多用が問題であったため、開講前の講師会では教科書による授業実施の再徹底を指導した。
		【2-4】	運営組織	4	自己評価について指摘される点は特になし。	
		【2-5】	人事・給与制度	3	自己評価について指摘される点は特になし。	
		【2-6】	意思決定システム	3	迅速なシステム構築は簡単ではないが、当社ではLINEWORKSを活用し、以前よりも早い意思決定が可能になった(久保)。	校長による学内決裁は迅速だが、重要案件の決裁は10日前後を要し、課題が残る。引き続きの改善に向け努力する。
		【2-7】	情報システム	3	リモート対策が重要。オープンキャンパスの実施案内をホームページに掲載するだけではなく、当日の様子(在校生と高校生・保護者との会話)を掲載すれば効果的ではないか(鈴木)。	現在、在校生の学校行事の様子をインスタやTwitterを通じて提供中。 今後は学生による学校生活動画の配信を増やす方針で、インターネット活用術授業に撮影・編集技術を取り入れた。
		【3-8】	目標の設定	3	国家試験対策には一層時間を掛け取り組んでほしい(鈴木)。 英検合格のメリット等を説明し、受験取組が浸透しつつある。今後も多くの検定を学生に紹介し、多様な学習活動の成果を増やしたい(簡井)。	自宅待機が学習時間増と検定合格率向上につながった。 不合格学生が自信を喪失せず再挑戦するよう、メンタルヘルスにも配慮する。
3	教育活動	【3-9】	教育方法・評価等	4	企業実習を実施できない期間を勉強時間に充てたことにより国家試験合格率向上に結びついたようだ。この機会にさらに幅広く取得を推進するのはどうか。当社でも資格取得を推奨中(久保)。	学習時間増が合格率向上に直結することが明らかであり、今後は家庭学習の習慣化に向け指導を徹底したい。
		【3-10】	成績評価・単位認定等	3	単位認定の性格上、企業実習の代替案の確立は不可欠(簡井)。	企業実習の代替授業設定は困難を伴ったが、高い学習効果を期待できるカリキュラムを作成できた。 今後、同様の状況にも迅速かつ有効に対応できるよう、カリキュラム研究を継続する。
		【3-11】	資格・免許取得の指導体制	4	資格試験の合格率は、新入生へのアピールポイントになる。いっそうの取組を期待する(青野)。 対策授業の配当がない資格については、どのような指導を行っているのか明確にし、学校が推奨する参考書の紹介・販売を行っているかどうか(鈴木)。	資格試験合格率はホームページ等でPRする。 対策授業がない資格に対しては、合格生の学習レポート提供等を考える。
		【3-12】	教員・教員組織	4	授業アンケート結果の公表を希望する(鈴木)。	授業アンケートは教員個人の授業評価であり、現時点では公表は考えていない。
		【4-13】	就職率	3	就職希望者に対する内定者数を明示すべき(鈴木)。 学校の性質上は100%を目標とすべきだが、コロナ禍でも健闘していると感じた(簡井)。	求人状況の変化によるものか、学生の応募動向が不安定で内定者増に結び付きにくい状況にあり、エントリー指導が必要と考える。 内定率公表方法については再検討する。
4	学修成果	【4-14】	資格・免許の取得率	3	資格は『実社会で活躍するため』に取得するものであり、就活対策ではないことを再認識する必要がある(久保)。 受験者数に対する合格率を明示すべき(鈴木)。 国内旅行業務取扱管理者試験の合格率が50%へ大幅向上したことは素晴らしい(簡井)。	資格取得は就職に直結する訳ではないが、学生の学習成果に他ならず、専門学校としては重要任務と心得る。 今後も高合格率を目指し、指導とアピールを行う。
		【4-15】	卒業生の社会的評価	3	卒業生の追跡調査は時間対効果が期待できない。ロイヤリティの高い学生のみ厚く対応するのが適切と考える(園辺)。 評価のための調査方法が難しい(簡井)。	同窓会役員にも対応の提案を求め、引き続き検討する。

基準		点検項目		自己評価	4	評価に対する今後の取組み
番号	項目名	項番	項目名			
5	学生支援	[5-16]	就職等進路	4	SPI対策を1年早期から開始してほしい(鈴木)。 合同企業説明会の参加については、志望者に絞って認めるなど工夫が必要(鈴木)。 内定を得られないまま卒業した就職希望者に対し、支援が必要と考える(鈴木)。	SPI対策は、前期に基礎教養を習得した後、1年次後期に学習することが最も効果的と考えている。
		[5-17]	中途退学への対応	4	自己評価について指摘される点は特になし。	
		[5-18]	学生相談	4	学校カウンセラーの利用は、子供の性格やカウンセラーとの相性によっては逆効果もあり得る。保護者に対しても同様に注意を要する(鈴木)。	学生の抱える問題や要因は様々。 学生や保護者に対し、個別にコンセンサスを得ながら、慎重に対応する方針。
		[5-19]	学生生活	4	SNS利用を学校が推奨し、学校SNSをシェアさせる。学校SNSでは卒業生向けの情報発信や現状報告を求め、普及を進めてはどうか(久保)。	SNS利用に関しては、個人情報管理などのセキュリティ対策も含めて授業で扱うこととする。
		[5-20]	保護者との連携	4	自己評価について指摘される点は特になし。	
		[5-21]	卒業生・社会人	3	1年生と2年生の在学中の結び付きを強化する対策が必要と考える(園辺)。 卒業時のメールアドレスへ就職先社用アドレスを問い合わせ、卒業後は社用アドレスに対して実態調査等を行ってはどうか(久保)。 同窓会の維持・運営が難しい時代だが、ICTを駆使した穏やかなまとまりを構築することも可能。コロナ禍では繋がりが自体が貴重であり、同窓会もその一つと言える(簡井)。	感染収束後は1・2年合同のイベントを実施し、学生同士の絆を強化したい。 社用アドレスの入手については、企業側の同意を含め検討する。 同窓会については、役員に意見を求めつつ、卒業生との繋がりを得る手段を検討する。
6	教育環境	[6-22]	施設・設備等	4	学生の自己学習用にパソコン支給、Wi-Fi導入を検討してはどうか(久保)。	小学校でパソコンが支給される時代ではあるが、専門学校では経費がそのまま学費増額に反映され、現状でパソコン全員支給は難しい。
		[6-23]	学外実習、インターンシップ等	3	コロナ禍の現状においては4で良いと考える(園辺・簡井)。 企業実習を実施できない場合の代替企画として、資格試験対策などはどうか(鈴木)。	企業実習の代替授業には、実践教育の他に働く意味を理解させる点も欠かせず、資格試験対策のみでは内容が不足する。 現在の代替授業に対する学生の習得度を確認し、内容を向上させたい。
		[6-24]	防災・安全管理	3	自己評価について指摘される点は特になし。	
7	学生の募集と受け入れ	[7-25]	学生募集活動	3	動画作成は時間を要するので、学生作成動画を採用するのは効率的だ(久保)。 都立高校に対しても学校説明会を実施しているか。ホームページは学科ごとの内定速報を表す等、閲覧者が見やすい表示を期待する(鈴木)。 メディアの観点では、特色の表し方や伝え方が重要で、インスタやYouTubeを利用した広報戦略は有効と考える。学生による動画作成は学習にも繋がりが、良い(簡井)。	インスタやYouTubeを活用し、学校生活を配信する。 課外学習等は特に動画に適しており、積極的に配信したい。
		[7-26]	入学選考	4	自己評価について指摘される点は特になし。	
		[7-27]	学納金	4	自己評価について指摘される点は特になし。	
8	財務	[8-28]	財務基盤	4	自己評価について指摘される点は特になし。	
		[8-29]	予算・収支計画	4	自己評価について指摘される点は特になし。	
		[8-30]	監査	4	自己評価について指摘される点は特になし。	
		[8-31]	財務情報の公開	4	自己評価について指摘される点は特になし。	
9	法令等の遵守	[9-32]	関係法令、設置基準等の遵守	4	自己評価について指摘される点は特になし。	
		[9-33]	個人情報保護	3	当校でも厳格に取り組んでいる。一人ひとりの学生に寄り添うために、誰とどこまで情報共有するかは難しい問題だ(簡井)。	学生と家族・友人間の感染報告が散発するが、それが仲間外れ等を誘引しないよう情報を管理している。引き続き、学内の個人情報管理を徹底する。
		[9-34]	学校評価	4	学生・保護者が回答する学校アンケートを実施し、結果を在校生・保護者にのみ公開する取り組みはどうか(鈴木)。	入学時のアンケートを数値化し、保護者会等で報告する等の機会を検討する。
		[9-35]	教育情報の公開	4	自己評価について指摘される点は特になし。	
10	社会貢献・地域貢献	[10-36-1]	社会貢献・地域貢献	3	区立中学の修学旅行プラン作成指導は良い取組。学生主体で実施すれば意識向上に繋がりが、学習効果も期待でき、ボランティアのあり方ともいえる(簡井)。	区立中学の修学旅行プラン作成については、感染収束後にぜひ取り組みたい。
		[10-36-2]	国際交流	4	自己評価について指摘される点は特になし。	
		[10-37-1]	ボランティア活動	3	コロナ禍では学校全体でボランティアに取り組むことは困難であり、4は妥当(園辺)。 目的を明確にすれば、ボランティアが「自らの糧になると理解し、参加が増えるのではないか(久保)。	現状では難しいが、今後も実施を検討する。

総合評価【自己評価の確認および次年度重点項目の設定】

本校の自己評価については、学校関係者から全て『適切に運用されている』との評価を頂きました。学校関係者評価委員の方々は学校・企業・保護者等の立場から、本校が気付かない様々なご意見を、専門分野における経験と見識を以てご指摘くださいました。

質疑応答の中では、本校の取り組みの苦勞をご理解のうえ、各学校関係者の組織におけるご苦勞もお伝えいただき、情報を共有することが出来ました。

今後は、学校関係者からご指摘を受けた部分、特に評価ポイントが低い項目について、内容を精査し、次年度の教育重点項目として自己点検を実施し、改善に努めてまいります。

4. 学校関係者評価委員会議事録

4-1 2021 年度(令和 3 年度)第 6 回学校関係者評価委員会 議事録

基準Ⅰ(教育理念・目的・育成人物像)

渡辺隆	【1-3】 トラベル学科の現 2 年生に対し、厳しい求人状況を踏まえて広い分野での就活を指導した結果、内定率はコロナ禍にもかかわらず 89.7%と9割近い結果となった。 就職先の内訳は、ホテル 31%、旅行 24%、鉄道 17%、ホテル 1%、その他 13%。 他の業界が多く、旅行業への内定率推移は、コロナ前の2019年度以前が100%だったが、2020年度 39%、2021 年度 24%と大幅減少した。あと1~2年は我慢の年と考えている。
村上	駿河台大学の観光&国際ビジネスコースは、2020年は旅行業内定率が95%だったが、本年は旅行業からの求人はなく、在籍生 50 名は他業種へシフトし就活している。 数年は予測不能だが、学生にはこれまで通り正しい情報を公開し、広く就活するよう指導する。
園辺	当社では週1回の在宅勤務やリモート打ち合わせ(内外とも)がスタンダードになった。 駿台では100%対面授業とのことだが、企業実情に合わせて、在学中に多種類のリモート操作を練習し、入社後に即対応できるよう慣れておく必要がある。 旅行業の本格的な回復は、インバウンド状況に伴い、2023年頃からと推測する。
青野	当社は 2022 入社の求人を行わない。人員補充目的の求人は、新卒か経験者かを検討中だ。
久保	当社は全社員の 1/3 にあたる 1,800 人の早期退職と、店舗数 50 から 18 への縮小を行った。 新規採用は当面行わず、派遣等の一時雇用とする。 オンライン接客等を開始したため、web システムに強い社員が必要になった。
筒井	当校の今年度進学先は、コンピュータ系が増、旅行系が減、観光系は1名だった。 観光系には明るい展望を持てず、学校としても進めにくい。
鈴木	リモート会社説明会が多かった。相手の考えがわかりにくい等、息子はストレスを感じていたようだ。 リモート技術向上のための授業やweb環境作りがいつそう必要になる。
高島	学生のパソコンと web 知識は低く、会議参加やメール送信も苦手なようだ。トラベル学科の現2年生に対し、入社後のために『動画撮影、データ処理、メール送信』などのパソコン技能向上授業を実施した。今後は1年生や他学科へも拡大し、就活に役立てたい。
(検討事項)	web 教育内容は旅行業務に必要不可欠な技術とし、パソコン授業・インターネット活用術授業で教育する。 就職先としては、観光サービス業を目指し指導するが、当面は他業種を視野に入れた就活を指導する。 今後も実践的な対面教育を基本とし、ICT を臨機応変に活用する。

基準 2 (学校運営)

	【2-6】意思決定システム
久保	当社は4年前から業務でラインワークスを活用しているが、重要案件の決裁には使用せず、従来の紙ベースで稟申する。その点においては迅速化できたとは言えない。
青野	決裁は紙ベース。 テレワークの影響で、経理関係では請求書発行時の電子印鑑採用ができた。
村上	大学は従来通り。
園辺	意思決定システムは進んでいない。 経費削減のシステム化(携帯電話を安価なアンドロイドへ変更、リモート会議や在宅勤務推奨、紙による会議資料廃止等)を推進中だ。 会議システムのアプリは複数準備し、面談相手に合わせ使い分けている。
筒井	今後の募集や求人の見通しについてはどのように考えているか。
塚原	GO TO トラベルとインバウンドの動向に応じ、数年かけて回復すると考えている。
園辺	求人は 2024 春頃から多少の改善が期待するが、元通りの採用数にはならないだろう。 採用活動はリモートによる最終面接のみを実施することになる。 地方の優秀な学生にとってはチャンスが増えるが、リモート技術の習得が重要だ。
(検討事項)	学内 Wi-Fi・パソコン環境については、予算確保のうえ新規購入し、大幅改善した。 紙代・印刷代の削減については、一部講師によるプリント多用が問題であったため、開講前の講師会で教科書による授業実施の再徹底を指導し、改善が見込める。 校長による学内決裁は迅速だが、重要案件の学園長決裁事案は10日前後を要し、課題が残る。 引き続きの改善に向け努力する。 現在、在校生の学校行事の様子をインスタや Twitter を通じて提供中。 今後は学生による学校生活動画の配信を増やす方針で、インターネット活用術授業に撮影・編集技術を取り入れた。

基準 3 (教育活動)

	【3-9】教育方法・評価等
鈴木	国家試験対策授業は夏休みに集中的に実施され、体力・精神両面で疲労していた。 余裕ある時期・時間割で授業を行い、苦手分野の対策にも注力できるよう工夫を求める。 コロナの影響で企業実習を受けられなかったのは残念だった。
園辺	観光業界での企業実習は、あと2~3年は実施不可と考え、旅行業に固執せず、関連業界や汎用性のある分野へ拡大して計画する等の工夫が必要。
村上	就活取組は個人差が大きく、自己判断で行動を進められる学生から、キャリアセンターに頼り切る学生まで様々だ。 時世を読み自主的に行動することと、大学等から情報を得て利用すること、2つのバランスが大切だ。 IT 技術習得は就活に欠かせないが、教員もリモート授業の質的向上のために努力が必要だ。

渡辺隆	【3-11】資格・免許取得の指導体制 国内旅行取扱主任の合格率は以下の通り。 1年生:20%程度と低調(自己採点)。 2年生:40%。 総合旅行業務取扱管理者試験では、2020年度に英語が弱かったため、本年度は英語クラスを能力別編成で強化し、一定の効果があつた。
(検討事項)	自宅待機が学習時間増と検定合格率向上につながった。今後は家庭学習の習慣化に向け指導を徹底したい。不合格者が自信喪失せず再挑戦するよう、メンタルヘルスにも配慮する。 企業実習の代替授業設定は困難を伴ったが、高い学習効果を期待できるカリキュラムを作成できた。今後、同様の状況にも迅速かつ有効に対応できるよう、カリキュラム研究を継続する。 資格試験合格率はホームページ等でPRする。対策授業がない資格に対しては、合格生の学習レポート提供等を考える。 授業アンケートは教員個人の授業評価以外の面もあり、現時点では公表は考えていない。

基準 4 (学修成果)

渡辺隆	【4-13】就職率 全体の就職率は約 80%だが、ホテル学科がやや低かった。 ホテル業界はリゾートから求人があるが、学生・保護者共にリゾートより都内シティを希望する傾向が強く、都内はコロナの影響により求人数が減少した為、内定数の伸びに結びつかなかった。
久保	トラベル学科で内定率 90%としたのは、コロナ禍において素晴らしい成績だ。 学生の努力と、早期に広い業界への就活へ切り替えた指導が功を奏した。
久保	【4-14】資格・免許の取得率 当社では一般的な検定に加え、一部地域に特化した資格取得も推奨している。 自粛期間は勉強には良い機会といえるので、学生にも有効に過ごしてほしい。 特殊な資格は就活の際に目を引き、面接で会話の糸口にもなる。
青野	【4-15】卒業生の社会的評価 卒業後の追跡調査は難しい。 従来実施していた業界内のパーティがなくなった。個人情報保護法により名簿も入手しにくい。 退社情報はつかめるが、再就職先の情報は学校にはなかなか伝わらない。
南	同窓会担当者としても苦慮している。
(検討事項)	求人状況の変化によるものか、学生の応募動向が不安定で内定者増に結び付きにくい状況にあり、エントリー指導が必要と考える。 内定率の公表方法については再検討する。 資格取得が就職に直結する訳ではないが、学生の学習成果に他ならず、専門学校としては重要任務と心得え、今後も高合格率を目指して指導とアピールを行う。 同窓会役員にも卒業生の追跡調査に対する提案を求め、引き続き検討する。

基準 5 (学生支援)

筒井	【5-16】就職等進路 これまでの提案を聞き、進学・就職に関わらず、リモート技術が非常に重要と認識した。通信教育部の学生にとっても進学や就職後に必要な技術であり、きちんと指導したい。
鈴木	【5-20】保護者との連携 学費納付や保護者会通知は、郵送ではなくメールに切り替えてはどうか。 カウンセリングの存在を知らなかった。周知方法に工夫が必要。 家庭での親子の会話が充実しているとは限らない。担任と保護者を直接つなぐ連絡方法や機会があると安心だ。
園辺	【5-21】卒業生・社会人 卒業生追跡調査が進まないようだが、現代の個人主義時代に追跡調査を実施するリスクや、世間のニーズ、人件費等を鑑みて、目的や必要性を再考し調査継続を検討してはどうか。 企業では利益が得られない取組は早期中止し、目的見直しや別なアプローチを考える。 卒業後のつながり強化や、先輩・後輩の関係構築のために、1年生・2年生合同の授業を実施するのはどうか。
(検討事項)	SPI 対策は、1年次前期に基礎教養を習得した後、後期に学習することが最も効率的と考えている。 カウンセリング実施については、学生の抱える問題や要因は様であることを考慮し、個別にコンセンサスを得ながら、慎重に対応する方針。 SNS 利用については、個人情報管理などのセキュリティ対策も含めて授業で扱うこととする。 感染収束後は1・2年合同のイベントを実施し、学生同士の絆を強化したい。 社用アドレスの入手については、企業側の同意を含め検討する。 同窓会については、役員に意見を求めつつ、卒業生との繋がりを得る手段を検討する。

基準 6 (教育環境)

村上	【6-23】学外実習・インターンシップ 大学側は安全面を最優先し、2020・2021年度の語学留学を中止した。 2022年度も中止の方針が伺えるが、学生の希望を尊重した対応へ改善を図りたい。 フィールドワークは飯能市内に限定して実施中。
塚原	【6-24】防災・安全管理 各社の防災対策や災害時安否確認はどのように実施しているか。
久保	入居ビルが年2回実施する合同訓練に参加の他、民間の安否確認システムを導入している。 災害時の出社可否からワクチン接種有無(非公表)まで把握可能。 安否確認メールに対し3時間以内に返信するルールで、訓練も実施した。
園辺	セコムの社員安否確認システムを導入している。 防災訓練は入居ビルに従い実施。
青野	各部署で少人数のメール連絡網を作成している。
渡辺隆	これまでは学生の安全確保のみ取り組んできたが、職員に対しても取組が必要なことを認識した。

(検討事項)	小学校でパソコンが支給される時代ではあるが、専門学校では経費がそのまま学費増額に反映され、現状ではパソコン全員支給は募集に影響し、難しい。 企業実習の代替授業には、実践教育の他に働く意味を理解させる点も欠かせず、資格試験対策だけでは内容が不足する。 現在の代替授業に対する学生の習得度を確認し、内容を向上させたい。
--------	--

基準7(学生募集と受入れ)

納屋	【7-25】学生募集活動 オープンキャンパスはライブで年間20回実施し、毎回5名から20名程度の来校がある。 予約制のイベントとし、設備見学・在校生との交流・カリキュラム説明等を行う。 例年7月は来校者が増えるが、本年度は緊急事態宣言下で減少した。
園辺	学校の宣伝広告は硬軟バランスが難しそうだ。 Webでは年齢層を絞り、バナー広告を出す等が考えられる。
村上	大学はライブのオープンキャンパスを縮小し、webで同時開催している。 マンツーマンで実施し、カリキュラムから卒業後の進路まで教員が詳しく説明する。 1対1では専門性の高い模擬授業を実施できる。
筒井	多くの大学がオープンキャンパスから出願までweb中心になった。 駿台トラベルはAO出願から学校相談まで個別に実施しており、目的の説明やウェブ操作に不慣れな学生にとっては助かる。
渡辺隆	本年度のトラベル学科の授業で学校紹介動画を作成したところ、着眼点が新鮮で興味深かった。 学校作成動画と併せて募集に役立てたい。
(検討事項)	インスタやYouTubeを活用し、学校生活を配信する。 課外学習等は特に動画に適しており、積極的に配信したい。

基準8(財務)

(検討事項)	財務状況はホームページで公開し、健全な状態を維持している。 特に課題はない。
--------	--

基準9 法令等の遵守

鈴木	【9-33】個人情報保護 メールアドレスの登録や連絡受信は、滞りなく行えた。
納屋	卒業生の個人情報は保管期限が20年で、施錠のうえ厳重に管理している。
塚原	現在籍生と一部卒業生の学生カード(紙情報)は日常的に使用頻度が高く、担任教員が手元で管理している。
園辺	学生カードの管理は個人ではなく、学校として行うべきではないか。

	社員・顧客とも個人情報担当部署が厳重管理し、たとえ配属から依頼を受けても開示しない。
久保	社員情報はデータベース化し、閲覧制限を設けて厳重に管理している。
大野	学校システム内の学生情報は、職位・担当により閲覧制限がある。
渡辺千	カウンセリングに関わる記録は、紙面・パソコンとも施錠できるキャビネットで管理している。
渡辺隆	トラベル学科2年生に対し、社会常識を目的としたコンプライアンス授業を、外部講師を招いて実施した。
(検討事項)	学生と家族・友人間のコロナ感染報告が散発するが、それが仲間外れ等を誘引しないよう情報を管理している。引き続き、学内の個人情報管理を徹底する。 学校アンケートについては、入学時の調査結果を数値化し、保護者会等での報告機会を検討する。

基準 10 社会貢献・地域貢献

	【10-36】社会貢献・地域貢献
村上	大学の地域連携課は活動を休止しており学校単位の活動はないが、ゼミ単位ではボランティア活動を実施している。
青野	3年前、地域交流を目的に商店会組合に加入したが、現在はコロナで会議を中断している。
(検討事項)	授業での区立中学の修学旅行プラン作成については、感染収束後にぜひ取り組みたい。 ボランティア活動は現状では難しいが、今後も実施を検討する。

4-2 学校関係者評価委員会は第6回にて評価完了とし、第7回は開催しない。

以上